

大学番号：私278

注3

[平成27年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

認可

武庫川女子大学 看護学部

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 武庫川学院
平成27年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	法人室
職名・氏名	シツチョウ タキイ ユタカ 室長 瀧居 豊
電話番号	0798-45-3698
（夜間）	0798-45-3698
F A X	0798-45-3560
e-mail	hozin@mukogawa-u.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部
(□□学部(平成◇◇年度より変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学新設の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。
- 3 大学番号の欄については、平成27年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学部

<看護学科>

ページ

1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	9
4. 既設大学等の状況	10
5. 教員組織の状況	13
6. 留意事項等に対する履行状況等	21
7. その他全般的事項	22

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 武庫川学院

(2) 大学名

武庫川女子大学

(3) 大学の位置

〒663-8558
兵庫県西宮市池開町6番46号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(オオカワラ リョウ) 大河原 量 (平成13年9月)		
学長	(イトイガワ ナオスケ) 糸魚川 直祐 (平成20年4月)		
学部長	(アソ ヨウコ) 阿曾 洋子 (平成27年4月)		
学科長	(フジワラ チエコ) 藤原 千恵子 (平成27年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成25年度に報告済の内容 → (25)
平成27年度に報告する内容 → (27)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成24年度開設の4年制の学科の場合(平成27年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護学部 看護学科 学士(看護学)	4年	80人	- 年次人	80人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員超過率	開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	80人	-人	-人	-人	-人	-人	-人	-人	-人	-人	1.07倍	一倍	
	(-)		(-)		(-)		(-)		(-)				
	[-]		[-]		[-]		[-]		[-]				
志願者数	795	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
受験者数	743	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
合格者数	206	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
B 入学者数	86	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
入学定員超過率 B/A	1.07		-		-		-		-				

- (注) ・ 数字は, 平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。
 ・ 「開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率」は, 完成年度を越えて報告書を提出する大学(「改善意見等対応状況報告書」を提出する大学)のみ記入してください。「設置計画履行状況等報告書」の場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] (-) 86	[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	
2年次	/		[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	
3年次			[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	
4年次			[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	
計			[-] (-) 86	[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —	[-] (-) —

- (注) ・ 数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成27年度 入学者	86 人	0 人	平成27年度	0 人	— 人		0 %
			平成28年度	— 人	— 人		
			平成29年度	— 人	— 人		
			平成30年度	— 人	— 人		
平成28年度 入学者	— 人	0 人	平成28年度	— 人	— 人		#VALUE! %
			平成29年度	— 人	— 人		
			平成30年度	— 人	— 人		
平成29年度 入学者	— 人	0 人	平成29年度	— 人	— 人		#VALUE! %
			平成30年度	— 人	— 人		
平成30年度 入学者	— 人	0 人	平成30年度	— 人	— 人		#VALUE! %
合 計	86 人	0 人					0 %

(注)・数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成27年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手					
共通教育科目	人文科学科目	日本語表現入門	1・2・3・4前	2								兼 1			
		日本史の中の女性たち	1・2・3・4前・後	2									兼 1		
		日常生活からの哲学入門	1・2・3・4前・後	2									兼 1	本務校決定により中嶋優太（兼任）から城販真治（兼任）に変更（27）	
		自己発見アート	1・2・3・4前・後	1									兼 1		
		薬と心理学	1・2・3・4前	2									兼 1		
		こころとからだの心理学Ⅰ	1・2・3・4前	2									兼 1		
		こころとからだの心理学Ⅱ	1・2・3・4後	2									兼 1		
	基礎教養科目群	社会科学科目	心理学入門	1・2・3・4前・後	2								兼 1		
			生涯福祉論	1・2・3・4前・後	2									兼 1	
		人権教育論	1・2・3・4後	2									兼 1		
		「ふつう」を考える社会学	1・2・3・4前・後	2									兼 1		
		社会福祉とボランティア	1・2・3・4前・後	2									兼 1		
		生きがい探しのボランティア論	1・2・3・4前・後	2									兼 1		
		科目	日本国憲法	1・2・3・4前・後	2									兼 2	2人の兼任講師のうち、平野 亮（兼任）は本務校決定により米澤広一（兼任）に変更（27）
			現代家族論	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後	2									兼 1	前・後期各1コマを前期2コマ開講に変更（27）
			カウンセリングスキル	1・2・3・4前・後	2									兼 1	
			カウンセリングの実際	1・2・3・4前・後	2									兼 1	
	自然科学科目	女性と子どものヘルスケア	1・2・3・4後	2			1	1						オムニバス	
		健康を支える仕組み	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前	2									兼 1	前期2コマを前・後期各1コマ開講に変更（27）	
		遺伝子の不思議	1・2・3・4前・後	2									兼 1		
		生命科学の基礎	1・2・3・4前	2									兼 1		
		生活の中の物理学	1・2・3・4後	2									兼 1		
	ビジュアル科目	微生物がつくる発酵食品の不思議	1・2・3・4前	2									兼 1		
		大学生生活入門	1前・後	2									兼 1		
	ジェンダー科目群	命を守る生体の機序と科学	1・2・3・4前・後	2									兼 1		
		ジェンダーとアイデンティティー	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後	2									兼 1	当該科目の担当者には、「英会話入門」の担当コマ数を増加させたため、前・後期各1コマを前期1コマ開講に変更（27）	
		女性と家族のゆくえ	1・2・3・4前・後	2									兼 1		
		女性と教育	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後	2									兼 1	当該科目の担当者には、「英会話入門」の担当コマ数を増加させたため、前・後期各1コマを前期1コマ開講に変更（27）	
		女性の身体とセクシュアリティ	1・2・3・4前・後	2									兼 1		
	キャリアデザイン科目群	アジアのなかのジェンダー	1・2・3・4前・後	2									兼 1		
		論理的思考法Ⅰ	1・2前・後	2									兼 1		
		論理的思考法Ⅱ	1・2・3・4前・後	2									兼 1		
		パーソナルコミュニケーション	1・2・3・4後	2									兼 1		
		ヒューマンスキル入門	1・2・3・4前	2									兼 1		
		キャリアプランニングの基礎	1・2・3・4前・後	2									兼 1		
		実践コミュニケーション	1・2・3・4前・後	2									兼 1		
キャリアデザインとライフプラン		1・2・3・4前・後	2									兼 1			
女性のためのライフプランニング		1・2・3・4前・後	2									兼 1			
社会人基礎力とキャリアプラン		1・2・3・4前・後	2									兼 1			
言語・情報科目群	言語リテラシー科目	英会話入門	1・2・3・4前・後	2									兼 1		
		英会話基礎	1・2・3・4前・後	2									兼 1		
		英会話発展	1・2・3・4前・後	2									兼 1		
		英語再入門	1・2・3・4前・後	2									兼 1		
		ネットで学ぶ英語	1・2・3・4前・後	1									兼 1		
		英語リスニング入門	1・2・3・4前・後	1									兼 1		
		ドイツ語Ⅰ	1・2・3・4前・後	2									兼 1		
		フランス語Ⅰ	1・2・3・4前・後	2									兼 3		
		中国語Ⅰ	1・2・3・4前・後	2									兼 3		
		スペイン語Ⅰ	1・2・3・4前	2									兼 1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	健康・スポーツ科目群 健康・スポーツ実技科目	運動と健康の科学	1・2・3・4前	2								兼 1		
		知っておきたい救急処置	1・2・3・4前	2			1		1					オムニバス
		スポーツ実技(卓球)	1・2・3・4前・後	1									兼 1	
		スポーツ実技(ジャズダンス)	1・2・3・4前・後	1									兼 1	
		スポーツ実技(エアロビクス)	1・2・3・4前・後	1									兼 1	
		スポーツ実技(テニス)	1・2・3・4後	1									兼 1	
		スポーツ実技(遊びと障害)	1・2・3・4前・後	1									兼 1	
		スポーツ実技(ヨガ)	1・2・3・4前・後	1									兼 1	
基礎教育科目	看護を学ぶ基礎	初期演習(生活と看護)	1通	2				2						
		医学英語	2前	2								兼 1		
		看護英語	3前	2					3				オムニバス	
		情報リテラシーⅠ(情報活用の基礎)	1前	2					2					
	情報リテラシーⅡ(看護応用統計学)	1後	2								兼 1			
	造人体の機能	解剖生理学Ⅰ	1前	2								兼 1		
		解剖生理学Ⅱ	1後	2								兼 1		
	疾病の成り立ちと回復促進	生化学	1前	2								兼 1		
		臨床病態栄養学	1後	2								兼 1		
		微生物学と感染防御	1後	2								兼 1		
		看護薬理学	2前	2								兼 1		
		疾病治療概論	1後	2								兼 1		
		リハビリテーション学	3前	2								兼 1		
	健康と社会支援 障制度	保健医療福祉制度	2前	2								兼 2	オムニバス	
		チーム医療論	3前	2				1		2		兼 9	オムニバス	
		公衆衛生看護学	2後	2				1						
疫学		3前	2					1		1	兼 2	オムニバス		
専門教育科目	基礎看護学分野	看護学概論	1前	2			2						オムニバス	
		看護援助論	2前	2			1	2					オムニバス	
		基礎看護技術演習Ⅰ	2通	2			2	2		4			共同	
		基礎看護技術演習Ⅱ	2前	2			2	2		4			共同	
		基礎看護技術演習Ⅲ	2後	2			2	2		4			共同	
		基礎看護学実習Ⅰ	2前	1			2	2		4			共同	
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			2	2		4			共同		
	成人看護学分野	成人看護学概論	1後	1			1							
		成人看護学ⅠA	2前	2			2						オムニバス	
		成人看護学ⅠB	2後	2			2						オムニバス	
		成人看護学Ⅱ(慢性期)	3前	1			1	1		2			共同	
		成人看護学Ⅱ(急性期)	3前	1			1	1	1	2			共同	
		サポーティブケア	2後	1			1							
		成人看護学実習(慢性期)	3後~4前	3			1	1		2			共同	
	成人看護学実習(急性期)	3後~4前	3			1		1	3			共同		
	老年看護学分野	老年看護学概論	2前	1			2						オムニバス	
		老年看護学Ⅰ	2後	2			2			1			オムニバス	
		老年看護学Ⅰ	3前	1			2			3			共同	
		アクティブエイジング	2前	1			2						オムニバス	
		老年看護学実習Ⅰ	3後~4前	2			2			3			共同	
		老年看護学実習Ⅱ	3後~4前	2			2			3			共同	
	小児看護学分野	小児看護学概論	1後	1			1							
		小児看護学Ⅰ	2前	2						1				
		小児看護学Ⅱ	2後	1			1		1	2			共同	
		チャイルドディベロップメンタルアプローチ	3前	1			1		1				オムニバス	
		小児看護学実習	3後~4前	2			1		1	2			共同	
	母性看護学分野	母性看護学概論	2前	1			1							
		母性看護学Ⅰ	2後	2					1					
母性看護学Ⅱ		3前	1			1	1		2			共同		
ウィメンズヘルスケア		3前	1			1								
母性看護学実習		3後~4前	2			1	1		2			共同		
精神看護学分野	精神看護学概論	2前	1			1								
	精神看護学Ⅰ	2後	2			1	1					オムニバス		
	精神看護学Ⅱ	3前	1			1	1		2			共同		
	グループアプローチ	3前	1			1	1					オムニバス		
	精神看護学実習	3後~4前	2			1	1		2			共同		
在宅看護学分野	在宅看護学概論	2前	1			1								
	在宅看護学Ⅰ	2後	2					1						
	在宅看護学Ⅱ	3前	1					1	3			共同		
	在宅看護学実習	3後~4前	2			1	1		3			共同		

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専門 教育 科目	統合 分野	統合看護学実習	4後	2			10	6	2	21		共同
		看護マネジメント	4前	1				1				兼1 オムニバス
		家族看護学	4後	1			1					
		看護研究方法	4前	2			2	1	1			オムニバス
		看護英文講読	4前	1			10	6	2			共同
		卒業演習	4通	2			10	6	2			共同
		国際看護学	3前		2		1					集中
		実践看護英語	3前		2			1				集中

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成27年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成○年○月 提出予定」と記入してください。)
- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備 考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 63	科目 59	科目 —	科目 122	科目 63	科目 59	科目 —	科目 122	
				[0]	[0]	[—]	[0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

「該当なし」

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

「該当なし」

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「該当なし」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考	
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	武庫川女子大学短期 大学部と共用 校舎敷地と別地 (徒歩10分) 平成27年3月及び4月 校地・校舎等の変更届 出済み(27)	
	校 舎 敷 地	67,930.61 m ²	70,506.56 70,357.14 m²	— m ²	138,437.17 138,287.75 m²		
	運 動 場 用 地	0 m ²	92,448.49 m ²	— m ²	92,448.49 m ²		
	小 計	67,930.61 m ²	162,955.05 162,805.63 m²	— m ²	230,885.66 230,736.24 m²		
	そ の 他	0 m ²	7,953.79 m ²	— m ²	7,953.79 m ²		
	合 計	67,930.61 m ²	170,908.84 170,759.42 m²	— m ²	238,839.45 238,690.03 m²		
(2) 校 舎	専 用	62,395.98	109,532.61	— m ²	171,928.59	武庫川女子大学短期 大学部と共用 平成27年3月 校地・ 校舎等の変更届出済み (27)	
	62,399.94 m²	109,619.68 m²	— m ²	172,019.62 m²			
	(62,395.98 m ²)	(109,532.61 m ²)		(171,928.59 m ²)			
	(62,399.94 m²)	(109,619.68 m²)	(— m ²)	(172,019.62 m²)			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		
	156 室	277 室	377 室	1 室 (補助職員 6人)	3 室 (補助職員 1人)		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数			
	看護学部 看護学科			26 室			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点
	看護学部	4,900 [300] (3,000 [200])	40 [15] (25 [10])	20 [14] (20 [14])	75 (50)	6,505 (6,452)	48 (45)
	計	4,900 [300] (3,000 [200])	40 [15] (25 [10])	20 [14] (20 [14])	75 (50)	6,505 (6,452)	48 (45)
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		
	12,387.95 m ²		1,688 席		868,000 冊		
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				
	14,701.70 m ²		総合スタジアムスタンド、各グラウンド内のトイレ・更衣室のほか、テニスコート10面、サッカー・ラクロスコート1面、ソフトボールコート1面、ビーチバレーコート1面、400mトラック6コース、多目的コート1面、バレーボールコート2面				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
	教員1人当り研究費等	480千円	480千円	図書購入費	15,740千円	10,990千円	0千円
	共同研究費等	7,500千円	30,000千円	設備購入費	276,252千円	21,159千円	0千円
	学生1人当り納付金	第1年次 1,900千円	第2年次 1,650千円	第3年次 1,650千円	第4年次 1,650千円	第5年次 千円	第6年次 千円
	学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成27年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(27)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	武庫川女子大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
文学研究科								
日本語日本文学専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士 (文学)	0.45	昭和46 年 度	兵庫県西宮市 池開町6番46号
日本語日本文学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (文学)	0.00	平成3 年 度	
英語英米文学専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士 (文学)	0.33	平成46 年 度	
英語英米文学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (文学)	0.33	平成12 年 度	
教育学専攻 (修士課程)	2	6	—	12	修士 (教育学)	0.83	平成17 年 度	
臨床心理学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士 (臨床心理学)	1.02	平成11 年 度	
臨床教育学研究科								
臨床教育学専攻 (修士課程)	2	16	—	32	修士 (臨床教育学)	0.81	平成6 年 度	
臨床教育学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (臨床教育学)又は(教 育学)又は(臨床心理 学)	0.99	平成9 年 度	
健康・スポーツ科学研究科								
健康・スポーツ科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士 (健康科学)又は(ス ポーツ科学)	0.52	平成23 年 度	
生活環境学研究科								
食物栄養学専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士 (食物栄養学)	0.91	昭和41 年 度	兵庫県西宮市 戸崎町1番13号
食物栄養学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (食物栄養学)	2.00	平成2 年 度	
生活環境学専攻 (修士課程)	2	6	—	12	修士 (生活環境学)又は(情 報メディア学)	0.66	平成12 年 度	
生活環境学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (生活環境学)又は(情 報メディア学)	0.33	平成12 年 度	
建築学専攻 (修士課程)	2	22	—	44	修士 (建築学)	0.67	平成18 年 度	
建築学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (建築学)	0.00	平成18 年 度	
薬学研究科								
薬学専攻 (博士課程)	4	2	—	8	博士 (薬学)	0.87	平成24 年 度	兵庫県西宮市 甲子園九番町 11番68号
薬科学専攻 (修士課程)	2	30	—	60	修士 (薬科学)	0.48	平成22 年 度	
薬科学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (薬科学)	0.83	平成24 年 度	
看護学研究科								
看護学専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士 (看護学)	1.33	平成27 年 度	兵庫県西宮市 池開町6番46号 平成27年度開設

大学の名称	武庫川女子大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学定員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部						1.15			
日本語日文学科	4	150	3年次25	650	学士 (日本語日文学)	1.15	昭和33年度	兵庫県西宮市池開町6番46号	平成25年度入学定員変更120→130
英語文化学科	4	200	3年次25	850	学士 (英語文化学)	1.16	昭和33年度		
教育学科	4	225	3年次25	950	学士 (教育学)	1.14	昭和38年度		
心理・社会福祉学科	4	160	3年次17	674	学士 (心理学)又は (社会福祉学)	1.15	平成12年度		
健康・スポーツ科学部						1.17			
健康・スポーツ科学科	4	150	3年次15	630	学士 (健康・スポーツ科学)	1.17	平成23年度		
生活環境学部						1.11			
生活環境学科	4	130	3年次20	560	学士 (生活環境学)	1.10	平成6年度		
食物栄養学科	4	200	3年次10	820	学士 (食物栄養学)	1.05	平成6年度		
情報メディア学科	4	150	—	600	学士 (情報メディア学)	1.14	平成6年度		
建築学科	4	40	—	160	学士 (建築学)	1.18	平成18年度	兵庫県西宮市戸崎町1番13号	
音楽学部						0.97			
演奏学科	4	30	—	120	学士 (声楽)又は (器楽)	0.82	平成21年度	兵庫県西宮市池開町6番46号	
応用音楽学科	4	20	—	80	学士 (応用音楽)	1.13	平成21年度		
薬学部						1.07			
薬学科	6	210	—	1,260	学士 (薬学)	1.03	平成18年度	兵庫県西宮市甲子園九番町11番68号	
健康生命薬科学科	4	40	—	160	学士 (薬科学)	1.12	平成18年度		
看護学部						1.07			
看護学科	4	80	—	320	学士 (看護学)	1.07	平成27年度	兵庫県西宮市池開町6番46号	平成27年度開設
大学の名称	武庫川女子大学短期大学部								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学定員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
日本語文化学科	2	100	—	200	短期大学士 (日本語文化学)	0.95	昭和26年度	兵庫県西宮市池開町6番46号	
英語キャリア・コミュニケーション学科	2	100	—	200	短期大学士 (英語コミュニケーション学)	1.02	昭和25年度		
幼児教育学科	2	150	—	300	短期大学士 (幼児教育学)	1.01	昭和26年度		
心理・人間関係学科	2	100	—	200	短期大学士 (心理・人間関係学)	0.90	昭和62年度		
健康・スポーツ学科	2	80	—	160	短期大学士 (健康・スポーツ学)	1.13	昭和30年度		
食生活学科	2	160	—	320	短期大学士 (食生活学)	0.97	昭和26年度		
生活造形学科	2	160	—	320	短期大学士 (生活造形学)	0.89	昭和25年度		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部，学科），大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について，それぞれの学校種ごとに，平成27年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等，「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織ごと」には，課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお，課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は，法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」，短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては，記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には，標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合，入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「－」とし，「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画				変更状況				備考			
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授 (学部長)	阿曾 洋子 (66)	平成27年4月	看護学概論※ 基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合看護学実習 看護英文講読 卒業演習							
専	教授	和泉 京子 (48)	平成27年4月	公衆衛生看護学							
専	教授	川端 京子 (55)	平成28年4月	成人看護学ⅠA※ 成人看護学ⅠB※ 成人看護学Ⅱ(慢性期) サポーターケア 成人看護学実習(慢性期) 統合看護学実習 看護英文講読 卒業演習							
専	教授	久米弥寿子 (49)	平成27年4月	看護学概論※ 看護援助論※ 基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合看護学実習 看護研究方法※ 看護英文講読 卒業演習							
専	教授	寶田 穂 (57)	平成28年4月	精神看護学概論 精神看護学Ⅰ※ 精神看護学Ⅱ グループアプローチ※ 精神看護学実習 統合看護学実習 看護英文講読 卒業演習							
専	教授	徳重あつ子 (48)	平成28年4月	老年看護学概論※ 老年看護学Ⅰ※ 老年看護学Ⅱ アクティブエイジング※ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合看護学実習 看護研究方法※ 看護英文講読 卒業演習							
専	教授	新田 紀枝 (53)	平成29年9月	在宅看護学実習 統合看護学実習 看護英文講読 卒業演習							

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授 (学科長)	藤原千恵子 (66)	平成27年9月	女性と子どものヘルスケア※ 小児看護学概論 小児看護学Ⅱ チャイルドディベロップメンタルアプローチ※ 小児看護学実習 統合看護学実習 家族看護学 看護英文講読 卒業演習						
専	教授	町浦美智子 (61)	平成28年4月	母性看護学概論 母性看護学Ⅱ ウィメンズヘルスケア 母性看護学実習 統合看護学実習 看護英文講読 卒業演習 国際看護学						
専	教授	宮嶋 正子 (61)	平成27年4月	知っておきたい救急処置※ 成人看護学概論 成人看護学ⅠA※ 成人看護学ⅠB※ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学実習(急性期) 統合看護学実習 看護英文講読 卒業演習						
専	教授	横島 啓子 (56)	平成28年4月	老年看護学概論※ 老年看護学Ⅰ※ 老年看護学Ⅱ アクティブエイジング※ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合看護学実習 看護研究方法※ 看護英文講読 卒業演習						
専	准教授	岩佐 真也 (44)	平成29年4月	疫学※						
専	准教授	片山 恵 (49)	平成27年4月	初期演習(生活と看護) 情報リテラシーⅠ(情報活用の基礎) チーム医療論※ 看護援助論※ 基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合看護学実習 看護英文講読 卒業演習						
専	准教授	久山かおる (59)	平成28年4月	在宅看護学概論 在宅看護学Ⅰ 在宅看護学Ⅱ 在宅看護学実習 統合看護学実習 看護英文講読 卒業演習						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	准教授	清水佐知子 (36)	平成28年4月	看護英語※ チーム医療論※ 看護援助論※ 基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合看護学実習 看護マネジメント※ 看護英文講読 卒業演習						
専	准教授	心光世津子 (37)	平成27年4月	初期演習(生活と看護) 看護英語※ 情報リテラシーⅠ(情報活用の基礎) 精神看護学Ⅰ※ 精神看護学Ⅱ グループアプローチ※ 精神看護学実習 統合看護学実習 看護研究方法※ 看護英文講読 卒業演習						
専	准教授	布谷 麻耶 (38)	平成29年4月	成人看護学Ⅱ(慢性期) 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学実習(慢性期) 統合看護学実習 看護英文講読 卒業演習						
専	准教授	本間 裕子 (46)	平成27年9月	女性と子どものヘルスケア※ 看護英語※ 母性看護学Ⅰ 母性看護学Ⅱ 母性看護学実習 統合看護学実習 看護英文講読 卒業演習 実践看護英語						
専	講師	池田 七衣 (35)	平成27年4月	知っておきたい救急処置※ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学実習(急性期) 統合看護学実習 看護英文講読 卒業演習						
専	講師	藤田 優一 (39)	平成28年4月	小児看護学Ⅰ 小児看護学Ⅱ チャイルドディベロップメンタルアプローチ※ 小児看護学実習 統合看護学実習 看護研究方法※ 看護英文講読 卒業演習						
専	助教	秋山 正子 (42)	平成29年4月	在宅看護学Ⅱ 在宅看護学実習 統合看護学実習						
専	助教	麻生 浩司 (35)	平成29年4月	精神看護学Ⅱ 精神看護学実習 統合看護学実習						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	助教	荒木 大治 (38)	平成28年9月	老年看護学Ⅰ※ 老年看護学Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合看護学実習						
専	助教	岩崎 幸恵 (34)	平成29年4月	老年看護学Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合看護学実習						
専	助教	植木 慎悟 (34)	平成28年9月	小児看護学Ⅱ 小児看護学実習 統合看護学実習						
専	助教	上谷 千夏 (41)	平成28年4月	基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学Ⅱ(慢性期) 統合看護学実習		谷口 千夏			改姓(27)	
専	助教	海原 律子 (51)	平成29年4月	チーム医療論※ 疫学※						
専	助教	北尾 美香 (32)	平成28年9月	小児看護学Ⅱ 小児看護学実習 統合看護学実習						
専	助教	工藤 貴子 (45)	平成29年4月	成人看護学Ⅱ(慢性期) 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学実習(慢性期) 統合看護学実習						
専	助教	阪上 由美 (47)	平成29年4月	在宅看護学Ⅱ 在宅看護学実習 統合看護学実習						
専	助教	杉浦 圭子 (46)	平成29年4月	老年看護学Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合看護学実習						
専	助教	谷口 俊恵 (49)	平成29年4月	精神看護学Ⅱ 精神看護学実習 統合看護学実習						
専	助教	谷郷 智美 (38)	平成29年4月	チーム医療論※ 母性看護学Ⅱ 母性看護学実習 統合看護学実習						
専	助教	玉木 朋子 (42)	平成29年9月	成人看護学実習(急性期) 統合看護学実習						
専	助教	田丸 朋子 (35)	平成28年4月	基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合看護学実習						
専	助教	平田 記子 (32)	平成28年4月	基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合看護学実習		上田 記子			改姓(27)	
専	助教	平野 方子 (39)	平成29年9月	成人看護学実習(急性期) 統合看護学実習						
専	助教	藤本かおり (52)	平成29年4月	成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学実習(急性期) 統合看護学実習						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	助教	宗岡 千晴 (35)	平成29年4月	在宅看護学Ⅱ 在宅看護学実習 統合看護学実習						
専	助教	山口 晴美 (30)	平成28年4月	基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合看護学実習						
専	助教	山口 舞子 (40)	平成28年4月	母性看護学Ⅱ 母性看護学実習 統合看護学実習			大西 舞子			改姓(27)
専	助教	湯浅 美香 (45)	平成29年9月	成人看護学実習(慢性期) 統合看護学実習	専	助教	後任補充	平成29年9月	成人看護学実習(慢性期) 統合看護学実習	平成27年3月～平成29年9月に就任予定の湯浅美香助教が就任辞退(27) 後任候補者は選定済みで、平成27年7月開催のAC教員資格審査に変更書提出予定
兼任	教授	雨海 照祥 (58)	平成27年9月	臨床病態栄養学						
兼任	教授	伊勢川裕二 (59)	平成27年4月	命を守る生体の機序と科学						
兼任	教授	大西 次郎 (55)	平成29年4月	チーム医療論※						
兼任	教授	岡村 昇 (51)	平成29年4月	チーム医療論※						
兼任	教授	木下 健司 (61)	平成27年4月	健康支える仕組み						
兼任	教授	佐方 哲彦 (61)	平成29年4月	チーム医療論※						
兼任	教授	高橋 享子	平成27年4月	生化学						
兼任	教授	内藤 義彦 (61)	平成28年4月	保健医療福祉制度※ 疫学※						
兼任	教授	濱谷 英次 (69)	平成27年4月	大学生活入門 論理的思考法Ⅰ 論理的思考法Ⅱ						
兼任	教授	林 宏一 (53)	平成28年4月	保健医療福祉制度※						
兼任	教授	松井 徳光 (55)	平成27年4月	微生物が作る発酵食品の不思議 微生物学と感染防御						
兼任	教授	松尾 善美 (53)	平成27年4月	運動と健康の科学 リハビリテーション学 チーム医療論※						
兼任	教授	丸山 健夫 (59)	平成27年4月	情報リテラシーⅡ (看護応用統計学)						
兼任	教授	森山 賢治 (53)	平成27年9月	疾病治療概論						
兼任	教授	山添 光芳 (54)	平成27年4月	遺伝子の不思議 医学英語 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ						
兼任	准教授	籠田 智美 (50)	平成28年4月	看護薬理学						
兼任	准教授	鞍田 三貴 (55)	平成29年4月	チーム医療論※						
兼任	准教授	栗原 晶子 (44)	平成29年4月	チーム医療論※						
兼任	准教授	松本 裕史 (45)	平成29年4月	チーム医療論※						
兼任	講師	竹内 美保 (50)	平成29年4月	チーム医療論※						

設置時の計画										備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼担	講師	西尾亜希子(47)	平成27年4月	ジェンダーとアイデンティティ 女性と教育 アジアのなかのジェンダー 英会話入門 英会話基礎 英会話発展 ネットで学ぶ英語						
兼担	講師	松本佳久子(48)	平成29年4月	チーム医療論※						
兼担	助教	寺井 朋子(35)	平成27年4月	心理学入門						
兼任	講師	井高 浩一(56)	平成27年4月	フランス語 I						
兼任	講師	市成 直子(56)	平成27年4月	中国語 I						
兼任	講師	伊藤 淑子(65)	平成27年4月	フランス語 I						
兼任	講師	井上 尚之(60)	平成27年4月	生命科学の基礎						
兼任	講師	大上 律子(61)	平成27年4月	薬と心理学 こころとからだの心理学 I こころとからだの心理学 II						
兼任	講師	雄谷 昌子(47)	平成27年4月	スポーツ実技(ヨガ)						
兼任	講師	何 景琳(54)	平成27年4月	中国語 I						
兼任	講師	笠松 由利(52)	平成30年4月	看護マネジメント※						
兼任	講師	勝又千寿代(53)	平成27年4月	現代家族論						
兼任	講師	門野里栄子(56)	平成27年4月	「ふつう」を考える社会学 女性と家族のゆくえ						
兼任	講師	河崎 洋充(63)	平成27年4月	生きがい探しのボランティア論						
兼任	講師	小西 暢子(47)	平成27年4月	スポーツ実技(遊びと障害)						
兼任	講師	小林 清美(65)	平成27年4月	キャリアプランニングの基礎 実践コミュニケーション						
兼任	講師	小南 秀夫(65)	平成27年4月	日本国憲法						
兼任	講師	阪上 進一(67)	平成27年4月	フランス語 I						
兼任	講師	坂田 純子(45)	平成27年4月	スポーツ実技(エアロビクス)						
兼任	講師	坂手比呂志(59)	平成27年4月	スポーツ実技(卓球)						
兼任	講師	坂本 充(64)	平成27年4月	キャリアデザインとライフプラン						
兼任	講師	真貝 寿明(48)	平成27年4月	生活の中の物理学						
兼任	講師	蔣 海波(52)	平成27年4月	中国語 I						
兼任	講師	杉山 雅(66)	平成27年9月	人権教育論						
兼任	講師	鈴木 貴博(47)	平成27年9月	自己発見アート						
兼任	講師	武田 佳久(50)	平成27年4月	社会人基礎力とキャリアプラン						
兼任	講師	谷口 節子(62)	平成27年4月	パーソナルコミュニケーション ヒューマンズスキル入門						
兼任	講師	田和 真希(52)	平成27年4月	女性のためのライフプランニング 英語再入門 英語リスニング入門						
兼任	講師	坪井 幸栄(43)	平成27年4月	スペイン語 I						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	中島 弘美 (51)	平成27年4月	カウンセリングスキル カウンセリングの実際						
兼任	講師	中嶋 優太 (30)	平成27年4月	日常生活からの哲学入門	兼任	講師	城阪 真治 (35)	平成27年4月	日常生活からの哲学入門	平成27年3月 中嶋優太兼任講師が本務校決定による担当辞退のため変更 (27)
兼任	講師	中村 和子 (54)	平成27年4月	生涯福祉論 社会福祉とボランティア						
兼任	講師	橋木 郁子 (50)	平成27年4月	ドイツ語 I						
兼任	講師	平野 亮 (31)	平成27年4月	日本国憲法	兼任	講師	米澤 広一 (64)	平成27年4月	日本国憲法	平成27年3月 平野亮兼任講師が本務校決定による担当辞退のため変更 (27)
兼任	講師	福井 淳子 (45)	平成27年4月	日本語表現入門						
兼任	講師	古野 貢 (47)	平成27年4月	日本史の中の女性たち						
兼任	講師	松並 知子 (53)	平成27年4月	女性の身体とセクシュアリティ						
兼任	講師	村上 茂樹 (65)	平成29年4月	疫学※						
兼任	講師	吉川小百合 (30)	平成27年9月	スポーツ実技 (テニス)						
兼任	講師	吉村 節子 (58)	平成27年4月	スポーツ実技 (ジャズダンス)						

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成27年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

設置時の計画					変更状況					年齢構成		年齢構成(前年度の状況)	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
11	7	2	22	42	—	—	—	—	—	66	2	—	—
(3)	(2)	(1)	0	(6)	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]	歳	名	歳	名

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成27年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
- ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成27年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
 - ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・ 「年齢構成(前年度の状況)」については、報告書提出の前年度の状況を記載してください。今年度初めて報告書を提出する場合は記入不要ですので、「—」を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	助教	湯浅 美香	平成27年3月24日付で、一身上の都合を理由に本学への就任（平成29年9月）を辞退する旨の文書が理事長宛に提出(27)
2			
3			

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任（就任辞退を含む）等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

湯浅美香助教（平成29年9月に就任予定）からの就任辞退の申し出については、学部長が複数回にわたって慰留に努めたが、翻意に至らなかったため、理事長、学長ほかとの協議を経て、辞退の申し出を認めることとした。
現在、後任者を選定し、平成27年7月開催のAC教員資格審査に諮る予定であり、担当授業開始までに着実に後任者を配置するので、教育研究活動に支障は生じない。
また学生には、ガイダンス等を通じて担当者の変更を告知するとともに、シラバス等の各種印刷物等についても改定を行う。(27)

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成27年4月)	「該当なし」		
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年△△月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年□□月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年●●月)			

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
「特になし」	<p>なお平成26年10月23日に文部科学省高等教育局医学教育課看護教育係より、「看護師学校等指定申請書」の修正指摘を受け、同年同月28日付で当該申請書類に加筆修正を行った。(27)</p> <p>加筆修正した事項は、以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設数(47)を授業科目ごとに明示 2. 実習指導者の適切性について、精神保健福祉士の有資格者がいない1施設については、教員が常駐し、学生指導を行う体制をとることを明記。 3. 実習施設の概要において、複数の施設で実施する診療科名の過不足等を修正。幼稚園・保育園の養護教諭の定員を明示。 4. 実習承諾書において、同一法人で複数の施設において管理者が異なる場合は、施設ごとに承諾書を提出。実習承諾書の一部に、管理者の個人印での押印のあったものを職印に改めた。

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>【武庫川女子大学FD推進委員会】</p> <p>平成20年1月に学長直属の全学組織として設置。構成員は、開設する全ての学部の学科から選出された委員と教務部長及び学長が委嘱した委員(平成27年度は21人)からなる。</p> <p>【看護FD委員会】</p> <p>平成27年4月、看護学部、同研究科の開設に伴って、学部(研究科を含む)内に設置。大学FD推進委員会に看護学部(学科)から委員になっている教員を含め3人が委員となる。</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>【武庫川女子大学FD推進委員会】</p> <p>毎月1回開催を原則としており、平成26年度は8回開催し、出席率は約9割。</p> <p>また委員会内に、「授業改革WG」、「情報収集・広報WG」、「FD研修WG」の3つのワーキンググループを組織し活動を行う。 □</p> <p>【看護FD委員会】</p> <p>現在、活動内容やスケジュール等の基本方針を7月開催予定の学部教授会にて決定することになっているが、平成27年4月からは新任助教に対するFD研修会を実施。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>【武庫川女子大学FD推進委員会】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業改善のための基本方針の策定に関する事項 (2) 教員の研修会及び講習会の開催に関する事項 (3) 教員の教授法及び教授活動の相互研鑽に関する事項 (4) FD活動に関する情報の収集と提供に関する事項
--

- (5) 各学科の教員へのFD活動の啓発に関する事項
- (6) 教員の教授活動の支援に関する事項
- (7) その他、学長の諮問する事項及び委員会が必要と認めた事項

② 実施状況

a 実施内容

【武庫川女子大学FD推進委員会】

- ア. 授業アンケート改定案の作成
- イ. 実効性のある授業公開の検討
- ウ. FDニュースの発行
- エ. 情報収集と学内教職員への広報
- オ. FD研修の企画と実施
- カ. 「能動的学修の教員研修リーダー講座」に関する勉強会
- キ. 就任1年目研修の内容・時期の検討、決定、実施

【看護FD委員会】

- ク. 新任助教研修

【上記の他、大学として行っているFD活動の内容】

- ケ. 新任教職員オリエンテーション
- コ. 共通教育懇談会
- サ. 非常勤講師懇談会
- シ. 学部、研究科等による研究会・講演会ほか

b 実施方法 c 開催状況（教員の参加状況含む）

ア. 授業アンケート改定案の作成

「授業改革WG」が中心となって、平成27年度実施分から回答率のさらなる向上を図るとともに、設問内容の改善等を行うための検討とともに、過年度のアンケート結果の分析方法とデータ活用方法についての検討を行っている。

イ. 実効性のある授業公開の検討

「授業改革WG」が中心となって、非常勤講師の担当授業を含む全ての授業科目を公開するとともに、参観者には「授業公開アンケート」の提出を求め、授業改善の一助としている。参観者の増加について継続的に検討している。また優れた授業工夫の実践事例集の編集にも取り組んでいる。

ウ. FDニュースの発行

「情報収集・広報WG」が中心となって、FDニュースを年2回（第11号は平成26年10月、第12号は平成27年3月）発行。大学ホームページでも公開。今後も内容の充実を図っていく。

エ. 情報収集と学内教職員への広報

「情報収集・広報WG」が中心となって、FD関連図書・参考資料や他の機関で開催されるFD関連イベントの情報収集と提供を大学ホームページを通じて行っている。またFD推進委員会ホームページの改善についても検討している。

オ. FD研修の企画と実施

「FD研修WG」が中心となって、電子黒板を活用した授業改善討論会の開催

平成26年12月10日 16時30分～18時30分 参加者18人

カ. 「能動的学修の教員研修リーダー講座」に関する勉強会

「FD研修WG」が中心となって、本学教員が参加・修了した全国大学実務教育協会主催の「能動的学修の教員研修リーダー講座」についての勉強会を開催。

平成27年2月20日 16時30分～18時30分 参加者12人

キ. 就任1年目研修の内容・時期の検討、決定、実施

平成25年度まで就任1年目教員研修会として年度末に実施していたものを、平成26年度から名称を「新任教員FD討論会」に変更するとともに、研修内容を刷新して実施。平成26年度のテーマは、「自立した学習のための授業の工夫」

平成26年7月26日 13時30分～17時 参加者：新任教員26人、FD推進委員12人

ク. 新任助教研修

看護学部において、大学教育及び看護学教育に関する基礎的な知識や考え方について学び、自らがさらに知識を深めて思考を発展させることにより、不安なく学生に対応できるように気持ちの準備を行

うことを目的として、新任の助教及びこれまで看護学教育に関する研修を受講したことがない教員をも対象に、看護学部の教授等がリレー形式で講義（8回、各2時間）を行う。

1回：看護学教育の基盤 ①教育の目的とあり方、②教育の対象者である学生の理解

2回：看護学教育制度 ①看護学教育制度の変遷、②現行の看護学教育制度

3回：看護学教育課程全体、基礎看護学教育課程及び教育方法の特徴

4回：成人看護学（慢性、急性）教育課程及び教育方法の特徴

5回：小児看護学、母性看護学教育課程及び教育方法の特徴

6回：老年看護学、在宅看護学教育課程及び教育方法の特徴

7回：精神看護学、公衆衛生看護学教育課程及び教育方法の特徴

8回：FDマザーマップについて、グループワーク（ディスカッション）

平成27年4月9・10・14・16・17・21・22・30日 参加者：新任助教12人、講師役の教員ほか

以上のほか、看護学部の全教員に対して、レールダル社の高機能患者シミュレータ（SimMan）の取扱いに関する講習会を実施（平成27年4月15日）。

ケ. 新任教職員オリエンテーション

毎年度、新採用の教職員全員を対象にオリエンテーションを実施。

- ・立学の精神について（理事長）
- ・就業規則の概要について（人事課長）
- ・給与関係について（給与課長）
- ・学内外における教育改革の動向と教職員の役割（教育開発支援室長）
- ・本学教育の実際について（教務部長）
- ・学生の生活指導・支援について（学生部長）
- ・本学のキャンパスネットワーク及び情報教育の現状について（情報教育研究センター長）

平成27年4月1日 12時55分～17時

参加者：平成27年度新規採用の教職員及び平成26年度中途採用の教職員 80人

コ. 共通教育懇談会

毎年度、前・後期の定期試験終了後に共通教育科目を担当する専任・兼任・兼任教員が集まり、大学内外の状況を考察するほか、参加教員がグループに別れ、担当科目の状況や授業の工夫などについての意見交換を行い、授業改善に役立たせている。また教育成果の出ている授業科目については、「共通教育ニュース」のトピックとして取り上げ、教職員に周知している。

サ. 非常勤講師懇談会

本学の授業を担当する全員の非常勤講師を対象に、毎年4月、非常勤講師懇談会を開催している。

その内容は、(1) キャンパスネットワークの利用講習会、(2) 共通教育説明会、(3) 全体会として学長による教育方針の説明、教務部長による教務部の概要説明、質疑応答、(4) 学科別懇談会において学科の教育運営方針、教育目標、教育内容、学年暦及び祝日授業実施などを説明し、本学教育への理解と充実した教育の提供を求めている。平成27年度は4月2日に実施。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

・平成26年4月から、事務局組織に「教育開発支援室」を設置し、大学教育改革推進委員会やFD推進委員会の庶務を担い、全学の教育活動の支援体制を整えた。同室では、学外で開催されるFD関係の研修会や高等教育に関連する研究会などについて、学内システムを利用して教員に案内し、教員の質向上につながる取り組みを行っている。

・平成26年度から、学生に授業科目の目的、目標、内容等を十分に理解した上で選択し、受講中は各回の授業の全体の中での位置づけを理解し、事前事後の学修を主体的に行うことを促すことを狙いにシラバスの各項目の字数制限を撤廃するとともに、項目等の改善を図った。

・授業公開は平成22年度から始めたが、当初は教員のエントリーによるものであった。平成25年度から、非常勤講師を含む全ての教員の授業を公開している。平成26年度から教職員に対し、授業公開の趣旨を周知し、積極的な授業参観を促すため、自薦や開設する学科長から推薦された授業科目を「FD委員会が推奨する授業公開科目一覧」を公開するとともに、授業参観者に求めるアンケート用紙の自由記述を担当者にフィードバックしている。

・平成26年度から、共通教育科目の言語・情報科目群（言語リテラシー科目）に『英語チャレンジコース』を開設し、文学部英語文化学科以外の学科を対象に、英語による高度なコミュニケーション能力を有する学生を育成している。そのため、事務局組織に「外国語教育推進室」を設置し、その推進業務を担当している。

さらに平成27年度入学生から、英語文化学科以外の学科において、卒業要件として外国語の修得すべき単位

数を8単位以上と定め、全学的に外国語の運用能力向上に取り組んでいる。

・平成27年度入学生から、カリキュラムマップ、科目ナンバリングを明示して、到達目標やディプロマポリシーに示す知識・技能などの能力、養成する人材像がわかりやすくイメージできるよう改善を図った。

・平成27年4月、非常勤教員を含む教職員全員に対し、教育の質を一層向上させるための具体的方針、教職員の取り組み、学院としての支援方針をまとめた「さらなる大学教育の質向上のために」を公表した。

今後、教職員が取り組む項目は、1. より良い授業方法の工夫と実践、2. グローバルな視野を持った指導的女性の育成、3. キャリア形成の支援、4. FD・SDの推進を示している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

当該アンケート調査は、平成4年6月から導入し、現在に至っている。

平成26年度の実施状況は以下のとおり。

(1) 実施時期 前期（6月1～30日）、後期（1回目：10月27～11月7日、2回目：12月15日～1月10日）

(2) 調査方法 前期及び後期の2回目は、学内の「授業アンケートシステム」に学生が直接入力
後期の1回目は、授業改善ミニアンケート用紙にて回答

(3) 対象科目 初期演習（1年次演習）、ゼミ、論文科目、3名以上の共同担当科目、学外実習科目を
除く、専任・兼任教員が担当する授業科目（除外科目でも担当者の判断で実施可）

なおアンケートの回答率の一層の向上と回答の意図が明確に判断できるよう、設問内容を再検討し、設問数を減らした選択式アンケートに改善している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

前期及び後期とも、授業担当者は授業期間内に、アンケート結果に対して学生に授業改善点等を含んだフィードバックを行うとともに、その結果はパソコン上でも閲覧可能としている。

また集計結果についても科目別に閲覧可能にしている。

(1) 教員への対応 授業担当者は、「授業アンケートシステム」に学生から入力された結果や、授業改善ミニアンケートの回答用紙を見て、自らの自己評価、今後への改善に向けての検討材料として活用。また学科としては、学科長が教員個々の結果を把握した上で指導助言を行っている。また教育課程の再編成を検討する上での参考資料としても利用している。

(2) 学生への対応 「授業アンケートシステム」に入力された結果に対し、授業改善を含めたコメントを教員が入力し閲覧できるよう公開。また授業改善ミニアンケートに対しては、その結果を授業時にフィードバックしている。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学部（学科）は、本年4月に開設し、第1期生として86人の学生を迎え入れた。

教育と研究の成果に対する具体的な評価は、現時点で行うことはできないが、去る4月23・24日に本学の北摂キャンパス丹嶺学苑研修センターにて、学生86人全員と担任教員他による宿泊研修を実施し、改め教育目標や養成する人材像を説明し、今後4年間の学修に対する動機づけを行って、学生生活をスタートさせている。

また教員についても、助教を中心にFD活動としての研修会において看護学教育についての研鑽に努めるほか、全員が教育研究業績の上積みに精励するなど、設置の趣旨・目的等の実現に向けて真剣に取り組んでいる。

なお平成29年9月採用予定の助教1人が就任辞退を申し出たが、有能な後任者を補充することにより、教育に支障を来すことのないよう対応する。

今後も設置計画を着実に履行していくため不断の努力を傾け、学生確保と優れた教育・研究を進めていく。(27)

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

全学的な自己点検・評価の組織である大学自己評価委員会の下に、学部単位の自己評価委員会を設置している。看護学部自己評価委員会は、学部長、学科長、幹事教授が委員となって運営されるが、大学基準協会が示す点検・評価項目についての勉強会を開催し、今後の活動内容やスケジュール等の基本方針を7月開催予定の学部教授会にて決定することになっている。

なお既存の5学部13学科については、平成27年度に認証評価機関（大学基準協会）で評価を受けるため、自己点検・評価報告書ほかを提出しており、評価を受ける平成28年3月にその結果とともに報告書の全文を公表する。

b 公表方法

これまで自己点検・評価報告書を刊行し、学内外に配布するとともに、大学ホームページ上においても自己点検・評価報告書の全文、認証評価機関からの結果通知などを公開している。

③ 認証評価を受ける計画

平成27年度に認証評価機関（大学基準協会）の評価を受けるため、自己点検・評価報告書等を提出している。

平成10年度及び20年度に、大学基準協会から認証評価を受けている。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(平成 27 年 5 月 末 日)

武庫川女子大学F D推進委員会規程

(目的)

第1条 武庫川女子大学の教育理念及び学部等の教育目標の実現を目指し、社会に役立つ有為な人材を育成するために、教員の主体的・恒常的に行う授業の内容及び方法の改善・向上に資することを主たる目的とし、大学全体で組織的に教育水準の質的向上を推進するため、学長の下に、武庫川女子大学F D推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(構成)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- | | | |
|-------------------------|-----|-----|
| (1) 文学部各学科から推薦された委員 | 各1名 | 計4名 |
| (2) 健康・スポーツ科学部から推薦された委員 | | 1名 |
| (3) 生活環境学部各学科から推薦された委員 | 各1名 | 計4名 |
| (4) 音楽学部から推薦された委員 | | 1名 |
| (5) 薬学部から推薦された委員 | | 1名 |
| (6) 看護学部から推薦された委員 | | 1名 |
| (7) 共通教育部から推薦された委員 | | 1名 |
| (8) 教務部長 | | |
| (9) 学長が委嘱する委員 | | 若干名 |
- 2 委員長及び副委員長をおく。委員長及び副委員長は、学長が指名する。
- 3 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。欠員を生じた場合は、これを補充しなければならない。補充によって委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第3条 委員会は、第1条の目的を達成するため、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 授業改善のための基本方針の策定に関する事項
- (2) 教員の研修会及び講習会の開催に関する事項
- (3) 教員の教授法及び教授活動の相互研鑽に関する事項
- (4) F D活動に関する情報の収集と提供に関する事項
- (5) 各学科の教員へのF D活動の啓発に関する事項
- (6) 教員の教授活動の支援に関する事項
- (7) その他、学長の諮問する事項及び委員会が必要と認めた事項

(会議)

第4条 委員会は、原則として毎月1回会議を開く。

- 2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を行う。
- 4 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の者を出席させることができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、教育開発支援室が担当する。

(その他)

第6条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関する必要な事項は、委員会の議を経て委員長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成20年1月1日から施行する。
- 2 第2条第3項の規定にかかわらず、委員会設置当初の任期は平成20年1月1日から平成21年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。